

## 風薫る奈良古代史セミナー研修旅行（紀行文）

高山佐助   (蓮沼伸之)

### 1日目（5月23日）

薫風(くんぷう)爽やかな皐月(さつき)23日、新横浜駅でひかり号に乗り京都へ向かう。10年ぶりの新幹線は何故かしらスマートに見える。

京都駅では手作りの緑旗を振りかざす人がいた。なんと彼は古代史セミナーのメンバーで、誘導担当である。

同行メンバーと無事に待ち合わせができ、近鉄特急にて大和八木まで40分で到着した。普通電車に乗り換え、目的地がある畝傍御陵前で降りる。

昼食後に橿原考古学研究所附属博物館へ行くと、今回の研修旅行でガイドをして頂く米川先生が待っていた。先生は橿原考古学研究所の学芸部企画課長で、偉い考古学者である。古代史セミナー顧問である鈴木先生のお力添えもあって、ガイド役を快く引き受けて頂いた。

早速、博物館を案内して頂く。特別展「神宿る島宗像・沖ノ島と大和」では沖ノ島出土品と大和出土品が並べて展示されていた。常設展では大和で発掘された貴重な出土品を見学した後に、研究所へ向かい『シルクロードの文字』パネル展を見学した。世界最古の文明であるシュメールが文字発祥とのこと。

これで1日目の研修は終了し、橿原オークホテルに宿泊した。

### 2日目(5月24日)

ホテルで朝食を摂った後、午前8時35分に迎えに来た小型観光バスに乗る。この日は強行日程であり、分刻みのスケジュールが組まれていた。鉾崎代表幹事から時間厳守のお願いがアナウンスされる。

そんなことはお構いなしに、バスは遺跡巡りをして行く。米川先生は名調子で、古墳の概要や比定される被葬者、時代背景等を説明する。

午前中に安部文殊院西・東古墳、大神神社を参拝した。三輪山から流れる湧水を神社内で飲んだが、柔らかさに思わず神の水とを感じる。

そして、邪馬台国大和説者が卑弥呼の塚ではないかと言われる箸墓古墳。(筆者は断然九州説)

道路看板には『卑弥呼の里へようこそ・桜井市』と邪馬台国がこの地にあったかと、想像させる表現である。

纏向遺跡は県立住宅のアパートのそばに、こじんまりと佇(たたず)んでいた。これがヤマト王権最初の京(都市)かもしれない。

1600年後はひっそりとした場所になるとは、当時の大王は思いもよらないだろう。その後、崇神天皇陵の行燈山古墳、黒塚古墳と踏破した。

ところでご高齢の参加者たちの健脚ぶりには頭が下がる。古希の筆者は何度抜かれたことか…。

午後は『なら歴史芸術文化村』を見学する。仏像や壁画等の修復をする施設で、日本全国から疲弊した芸術品が集まっている。

その後石上神宮を参拝した。ここは物部氏の氏神で、百済王から贈られた七枝刀が鎮座している。

メンバーの希望により、盾形銅鏡が発掘された富雄丸山古墳を特別に見学した。こちらは発掘者である奈良市教育委員会の村瀬氏に説明して頂く。

古墳頂上からの眺望は抜群。この地にどなたが眠っているのだろうか。  
これで2日目の研修は終了し、午後5時30分にホテルへ到着した。

3日目(5月25日)

午前8時30分集合し、お世話になったホテルを後にする。

朝一番で訪れたのはメンバーから要望のあった、八角墳の牽牛子塚古墳。昨年、文化庁が整備し、古墳とは思えない様相である。

斉明(皇極)天皇陵ではないか、という学者が少なからずいるとのこと。古墳頂上からの遠望は見事であった。写真担当が古墳入口で集合写真を撮影する。さらに文武天皇の真陵説がある中尾山古墳を見学する。

次に目指すは明日香の遺跡だ。キトラ古墳壁画体験館『四神の館』を見学、ここも文化庁がスポンサーとなり見事な施設となった。そして村営高松塚古墳壁画館を見学。

昼食後石舞台古墳を見学、蘇我馬子の墓なのだろう。

その後、酒船石遺跡、飛鳥京苑池遺跡、板蓋宮遺跡を見学した。建物の柱の跡に杭が林立している。

中国の都を真似て大池を造り、天皇が貴人を饗(もてな)したのであろう。水の都飛鳥が彷彿させられる。利用不明な巨石文化も忘れずに。

ラストの藤原宮大極殿跡は広大であり、藤原京の壮大さが偲ばれた。そして午後2時40分に、橿原神宮駅に到着する。

3日間のツアーガイドをして頂いた米川先生にメンバー各々が感謝の握手をし、近鉄特急に乗る。

先生は来年の3月講座で講演予定だ。あの名調子を再び聞くことができる。どんなテーマか楽しみだ。

2泊3日の奈良研修旅行は一つのアクシデントもなく、無事に終了した。次回は何処への旅となるか。

それも楽しみなこと。

以上